

グループ活動でのコミュニケーションとコモンスペースの利用に関する研究
- 建築設計事務所に着目して -

Research on Communication of Group activity in Common Space
- Case Study of Architectural Design Office -

5. 建築計画 -3. 計画基礎
ワークスペースづくり
コモンスペース

建築設計
ワークスタイル

正会員 ○ 北澤 美奈**
正会員 加藤 彰一*

KITAZAWA Mina
KATO Akikazu

1. Abstract

This study focuses on common space, working together as a team, in architectural design offices. In November 2009, our laboratory surveyed 3 architectural design offices in America. In addition, It is demanded a change of the work-style of the staff by technical progress and social needs.

The contents of the investigation are the investigation of work-style characteristics of staff in office and the consideration to transform work-style in the municipality.

2. 研究の背景

近年の高度情報化とグローバリズムによって、我が国は情報ネットワークから価値を生み出し、進展させていく知識社会へと移行しつつあり、情報を活用し、新しいビジネスを創造するナレッジワーカーが求められている。

組織の知的生産性の向上はコミュニケーションによって促進される²⁾ことから、オフィスにおけるコミュニケーションの位置付けはますます重要になっている。

こうした動向の中、ワークスペースづくりにおいてもワーカーのコミュニケーションを支援し、共働やコラボレーションを生み出し、変化に対応できるフレキシビリティのある業務環境が求められており¹⁾、グループ業務を効率的に進め、活用するかが重要になってきている。

2. 研究の目的

既存研究において、ワークスペースにおけるコミュニケーション、交流行動がワークスタイルを決定づける要因であることが指摘²⁾されており、また組織・ワークスペース環境・ワークスタイルの関係について、自主性と多様性を軸に4つのワークスタイルに分類することができ、中でもナレッジ業務は独立部門内外にわたる活発で多様なコミュニケーション活動が特徴である³⁾ことが分かっている。本研究ではワークスペース内の業務支援空間の中でもグループ活動でのコミュニケーションが展開されると予測されるミーティングスペースに着目し、利用実態を把握することで、グループ活動におけるコモンスペースの役割を把握することを目的とする。

3. 研究対象・方法

本研究では高い専門知識を持ち、複数の建築種別を扱う建築設計事務所3社(KMD,OWPP,KPF)を調査対象とし、平成21年9月に建築図面・関連資料の収集、各事務所に對するヒアリング調査を行い、各事務所のワークスタイルやコモンスペースの利用状況、プロパティマネジメントについて把握した。ヒアリング調査と関連資料の収集は全事務所で行い、建築図面の収集はKMD、KPFからの協力を得ることができた。

表1 対象事務所の概要

調査日	事務所名	事務所の所在	事務所の所員数	所属の内訳
2009年9月8日	KMD San Francisco Office	カルフォルニア州サンフランシスコ	100名前後	デザイナー・エンジニア
2009年9月18日	OWP/P Phenix Office	アリゾナ州フェニックス	32名	デザイナー・エンジニア
2009年9月21日	KPF New York Office (57 Street)	ニューヨーク州ニューヨーク	150名	デザイナーのみ

** 三重大学大学院 工学研究科博士課程

** Graduate Student, Graduate School of Eng., Mie Univ.

4. 各事務所について

4-1. KMD San Francisco Office

(1) 事務所の概要

事務所が借入している建物は中央にコアを配し、オフィスは3階フロアと4階フロアにまたがっている。4階の執務室はコンビオフィス形式になっており、個室とオープンプランのワークスペース（図1）が組み合わされている。サンフランシスコオフィスに在籍している職員は100名前後であり、プロジェクトごとにチームを編成する。職員は全て自席を持ち、プロジェクトのチーム毎にチーフの周囲に自席を確保するシステムを取っているが、実際には移動することはあまりなく固定席となっている。

(2) コモンスペース

チームの活動を支援する空間として、チーム毎に小ミーティングスペース（図2）がある。このミーティングスペースの中央には円形または長方形のテーブルがあり、その周囲には書架やキャビネット、プリンタなどサポート設備（図3-1, 3-2）がある。こうした半オープンなスペースはコミュニケーションを促し、周囲の雑音によるプライバシーも確保される^{*4)}ため、グループ活動においては有用であると考えられる。

またロビーの近くにオープンな図書スペース（図4-1, 4-2）がある。この空間には本棚のほかにグランドピアノとテーブルがあり、本の閲覧の他に軽いミーティング、リフレッシュスペースとして使われ、多様な行為を許容するフレキシブルな空間になっている。このように多様なコミュニケーションを支援する空間は、職員のワークパフォーマンスを向上させるだけでなく、インフォーマルな職場環境を促していると考えられる。

(3) 会議室

ミーティングを行うクローズドな会議室としては、個人（上級管理職）の打ち合せのための会議室が3室、ミーティング用の会議室が2室、情報機器の整ったビデオルームが1室ある。ミーティング用の会議室にはテレビまたはスクリーンが設置されており、ビジュアルを用いたプレゼンやカンファレンスが行えるようになっている。ここでは外部者の応接や定例会議のほかに、コーヒーや軽食を取りながら行う打ち合わせにも使用されており（図5）、インフォーマルな活動を支援しているといえる。ビデオルームは特にデザインの決定過程で使用されている。ビデオルームを使用する理由としては、デザインミーティングが、意思決定だけでなく職員間での視覚的な情報の共有と伝達を行う場であることが考えられる。

【KMD San Francisco Office】

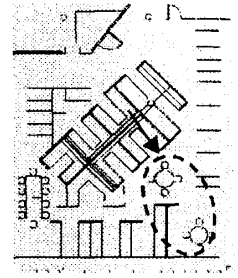
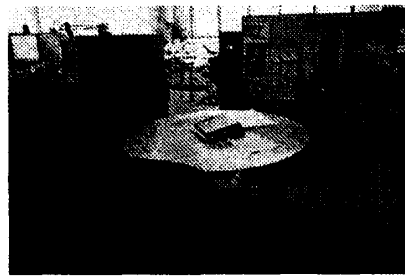


図1 ワークスペースレイアウト

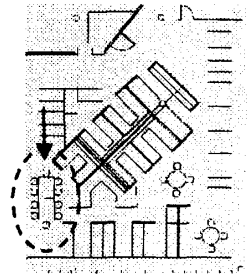


図2 小ミーティングスペース



図3-1 本棚



図3-2 キャビネット



図4-1 (左) 図書スペースのテーブルとピアノ



図4-2 (右) 図書スペースの書架



図5 ミーティングの様子

【OWPP Phoenix office】

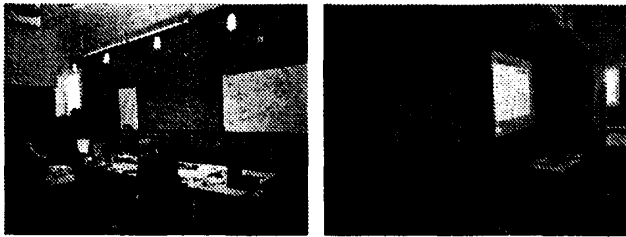


図 6-1 ミーティング風景 図 6-2 サポート設備

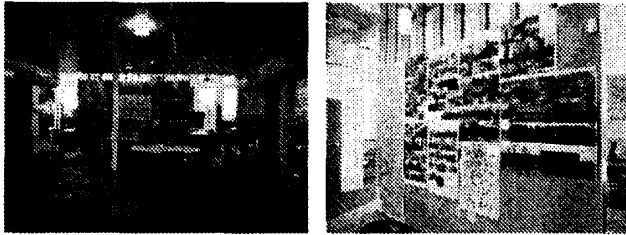


図 7-1 打ち合わせコーナー

図 7-1 プロジェクトボード

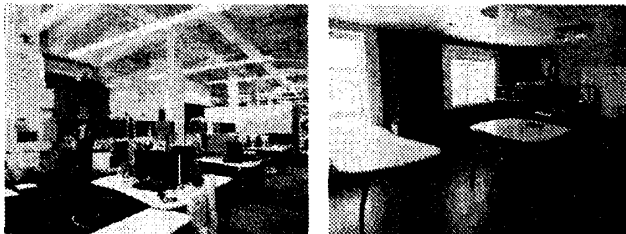


図 8 ワークスペース 図 9 リフレッシュエリア

【KPF New York 57street Office】

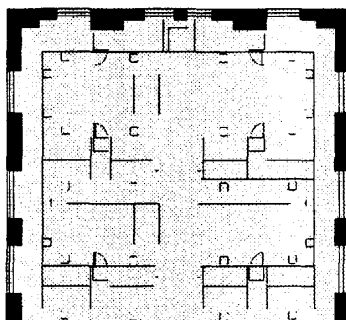


図 10 ワークスペースのレイアウト例

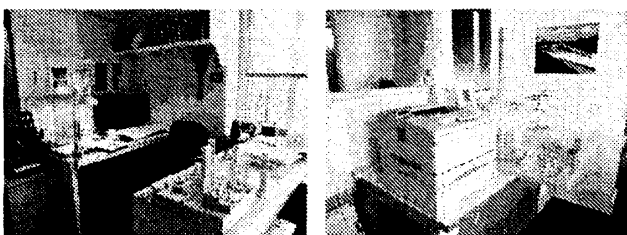


図 11 ワークスペース

図 12 サポート設備

4-2.OWP/P Phoenix office

(1) 事務所の概要

フェニックスオフィスはシカゴにあるセントラルオフィスのサテライトであり、在席職員数は32名のみとなっている。事務所は2階建て（一部3階）の建物の内部を改修したものである。メインエントランスは2階にあり、1階にエンジニアチーム、2階にデザインチームの執務室がある。3階のロフトはマテリアル・ライブラリー、リフレッシュルームがある。

(2) コモンスペース

グループ活動を行う場として、プロジェクトのプレゼン等を行うミーティングルーム（図6-1,6-2）、打ち合わせコーナー（図7-1）リフレッシュルーム（図9）等がある。ミーティングルームは作業空間も兼ね備えているため、フィードバックが容易にできると考えられる。打ち合わせコーナーは2階の中央にあり、背後に設計中のプロジェクトについて書かれたボードがある。（図7-2）

こうしたオープンスペースと情報掲示板は情報の交差点となり、組織の活動状況を把握することができるが、同時にコミュニケーションを引き起こす場ともなり⁴⁾、インフォーマルな職場環境を促していると考えられる。

4-3.KPF New York 57street Office

(1) 事務所の概要

ニューヨークオフィスは42丁目オフィスと57丁目オフィスの2つあり、今後42丁目オフィスへ統合する予定である。57丁目オフィスに在席している職員は150名、42丁目オフィスに在席している職員は200名前後いる。事務所はビルの13階から16階に入居している。

(2) ワークスペース

ワークスペースは個室とオープンプランオフィスを併用している。

オープンプランオフィスのレイアウトは部門ごとに異なって計画されている。15階の南棟では共有のテーブルを囲むようにしてPCテーブルを配置している（図10）。中央の四角い作業台とPCデスクはそれぞれ背を向けており、グループ業務、個人業務を分断することなく持続できると考えられる。別のレイアウトでは、通路に面して個人デスクが配置している。（図11）通路の反対側にはサポート設備がおかれている。（図12）

個室には中央にミーティングテーブルがあり、職員との打ち合わせに利用されている。（図13）

(3) コモンスペース

共用キッチンの設備と広さはワークスペースのレイアウトによって異なり、マーケティングチームの共用キッチンは給湯設備のほか、ミネラルウォーターが置かれて

おり室内は広いが大型プリンタも置かれている。(図 14)

図書室はエレベータホールからガラス越しに見ることができ(図 15-1)、中央にミーティングや図書の閲覧用の楕円形のテーブルがある。(図 15-2) 調査では図書とノートパソコンを用いたミーティング行為が見られた。

(4) 会議室

レセプションルームは、広い開口部を持つ明るい室内になっている。(図 16) 社内ネットワークと接続した HDD をもつ大型テレビがあり、チームでの打ち合わせ、週一回行われる勉強会、応接室に利用されている。

大レクチャールームは開口部がなく、周囲の壁面に進行中のプロジェクトのプレゼンボードが飾られている。

(図 17) 月 1 回開かれる KPF のニューヨーク 42 丁目オフィスと合同で勉強会や、クライアントに対してプレゼンテーションを行う際に利用されている。施設の中でも比較的広い空間であるが、日常的な業務では利用されおらず、効率的な施設活用のために、施設資産評価を行う必要であると考えられる。

5. 考察

グループ活動におけるミーティングスペースの利用方法について調査した。KMD ではミーティングルーム内で飲食をしながらコミュニケーションをとっている光景がみられた。フラットな関係からはアクティブなコミュニケーションが生まれやすくなるため^{*)}、グループ業務にインフォーマル性を持ちこむことで、活動の活性化をはかっていると思われる。

OWPP では、プレゼンルーム内にワークスペースがあり、コンピュータ、ホワイトボード、プレゼン用の設備機器が同居しているため、プレゼンでの視覚的触発や話題について書かれたホワイトボードやプレゼン資料を見ながら次の業務に移行することができる。こうした機能の複合は、情報を効率よくチーム全体へ伝達することができると考えられ、チームのコラボレーションにおいて重要であるといえる。

KPF は設計業務のみであるため、執務室内では設計業務に伴う共同作業テーブルがワークスペースの中心となっている。また、リフレッシュルームに談話空間が見られず、偶発的なコミュニケーションを生むため、今後共用スペースの充実が必要であると思われる。

6. まとめ

組織の文化や地域性はそれぞれ異なるものの、設計におけるグループ活動では、フレキシブルな作業スペースと個人業務へのフィードバックが重要であると分かった。

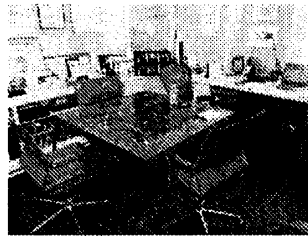


図 13 個室



図 14 共用キッチン

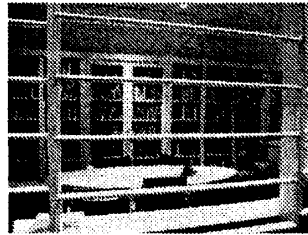


図 15-1 図書室①



図 15-2 図書室②



図 16 レセプションルーム



図 17 大レクチャールーム

謝辞

本稿を作成するにあたり、ヒアリング調査ならびに貴重な資料を提供して頂きました各事務所の方々に厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 1) FM 推進連絡協議会「総解説 ファシリティマネジメント」日本経済新聞社、2003年1月
- 2) 森 明生, 恒川 和久, 加藤 彰一, ロル ピータ: オフィスにおける平面構成, ワークスタイル, 交流行動の相互関係に関する研究、日本建築学会計画系論文集 551号、pp.129-134、20020130
- 3) ロル ピータ, 加藤 彰一, 恒川 和久, 塩崎 創, オープンプランオフィスを事例とした多様化するワークスタイルの現状分析と予測に関する研究: 予測的ファシリティマネジメントに向けたワークスタイル発展モデル、日本建築学会計画系論文集 594号、pp.33-38、20050830
- 4) フランクリン・ベッカー著・鈴木信治訳「ワークプレイス戦略」日経 BP 社、1996年5月